NIE特集
Newspaper In Education
毎月第２・４火曜日発行

大谷小

学校名　宮城県本吉町立大谷小学校　校長　藤村俊美
所在地　宮城県本吉町三島28　児童　221人
電話　0226（44）2202

平泉黄金文化支える

大谷鉱山の秘密に迫れ！

知り隊

私たちのふるさと、宮城県本吉町の大谷には「大谷鉱山」がありました。社会や総合的な学習の時間に昔から金が採れていたことを学習して興味をもち、「大谷鉱山歴史資料館」に6年生13人全員で見学に行きました。そこで資料館を管理する大原忠次さんにお話をうかがいました。

大谷小から西方に約2㌔、太平洋を背に山を登ると、丘の上にコンクリートの廃墟が見えてきました。

大谷鉱山の跡地で、そこに資料館が建っていて、中に案内されました。大谷では、平安時代終わりころ、金が採れたといわれています。

資料館の中で大原さん（右）に説明を受ける子どもたち

山中に町のにぎわい

「大谷も、平泉の黄金文化を支えた金鉱の一つだったんだよ」と大原さんが説明してくれました。わたしたちは、大谷の金が歴史に深くかかわっていることに驚くとともに、とても誇りに思いました。

大谷鉱山は明治時代から試掘を始め、昭和17（1942）年には、従業員1300人で年間1㌧余りの金を掘り出していました。金を掘る時は、はっぱをかけるのですが、坑道の中がほこりだらけになるので、その日はもう、掘る仕事はしなかったそうです。

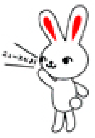
「そのころ、大谷鉱山の近辺はとてもにぎわい、一つの町のようだったんだ」と言います。資料館の中には、従業員の方の運動会の写真が展示されていましたが、見ていると、そのころの歓声が聞こえてくるようでした。

大谷鉱山は昭和51（1976）年に閉山になり、跡地は今ではひっそりとしています。でも、大原さんの話で昔はとても栄えていたことが分かり、自分たちの地域の素晴らしさを再発見したような気持ちになりました。大谷で採れた金は、大谷内にとどまらず、さまざまな場所で多くの人たちの手を経て大事にされ、産業の発展に役立ったのです。

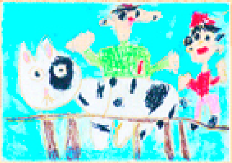
◇　◇

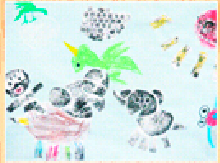
私たちの大谷の大きな自慢はきれいな海なのですが、大谷鉱山という歴史的に価値のある場所も、わが町の自慢に加えたいと思いました。今回の取材を通して、自分の住んでいる大谷のよさをあらためて感じたのと同時に、もっと多くの人にこの大谷の素晴らしさを伝えたいと強く感じました。

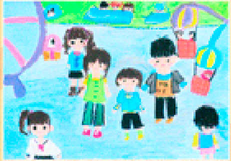
文・菊地渉美、菊地雪、小松夏純（6年）

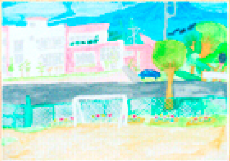


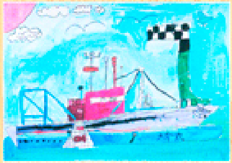
うきうきキャンバス


パンダうさぎとあそんだよ
１年・高橋啓


サイの親子とあそんだよ
２年・紺野嵐


楽しい遊園地
３年・小野寺穂菫


校舎から見える風景
５年・小野寺湧


今日も大漁だ
４年・佐々木大介

教え隊

浜清掃

小中生みんなで協力

大谷海岸で浜清掃（6月25日）

大谷小では、毎年海開きのころ、大谷海岸をきれいにする活動をしています。幼稚園から小学生、中学生のみんなが、縦割り班に分かれてごみや海草を拾います。時には、魚などが見られます。

各班で協力して、落ちているごみをできるだけ集めます。みんなが「きれいだな」と言ってくれる海岸にしたくて、がんばるのです。ごみを拾った後の海岸は、とてもきれいで気持ちがよくなります。浜清掃は、大谷小ならではの行事です。

文・小野寺美穂、佐藤夏輝（６年）

編集後記

自分たちでどのような内容を載せるのか考え、自分たちで記事を書き、作り上げたこの新聞。とても難しく、また楽しくもありました。

この新聞作りを通して、自分たちの住んでいる地域のよさの再発見をすることができました。私たちが作った新聞を多くの人に見てもらえると思うと「がんばってよかったな」と、うれしくなります。

とても良い思い出になったとともに、みんなで協力して作り上げることの大切さを感じました。この経験を生かして、今後もいろいろなことに挑戦していきたいと思います。

〈編集委員〉菊地渉美、菊地雪、小松夏純、芳賀萌黄、高橋海帆、小野寺美穂、佐藤夏輝、大原あすか（6年）
題字デザイン　大原あすか（6年）
〈指導教諭〉山内裕、熊谷美保

言い隊

■ ポイ捨てはやめよう ■

私たちの大谷小のすぐ近くに、小さな駄菓子屋があります。

ある日、私がその駄菓子屋の前を通ると、入り口前にあるごみ箱の近くや側溝の周辺に、かんだ後のガムやお菓子の袋や紙くずなどがたくさん散らばっていました。

（ごみ箱が目の前にあるのに…、周りの人もなぜ拾おうとしないの…）

このたくさんのごみを見たときの気持ちを、ごみを「ポイ捨て」した人に伝えたいと思いました。

そして、ごみがなく、みんながきれいですがすがしい毎日を送れるような、大谷地区にしていきたいと思います。

（6年・芳賀萌黄）

■ 人間と動物の共生を ■

私たちの住む大谷は、自然が豊かです。周りを木々に囲まれている私の家には、カモシカやタヌキが現れます。

最近、山からクマやハクビシンなどの動物が人家のある辺りまで出てきては、処分されています。私はそのたびに（なんてひどい！）と思います。

そもそも、動物が里に下りてくるのは人間が木を切って動物たちのすみかを荒らしたからです。動物が畑を荒らすのも悪いと思います。でも、人間も同じ動物です。

原因を作ったのは人間なのだから、すぐ処分するのではなく、山に帰すなど一緒に生活していける状況を作っていけたらと思いました。（6年・大原あすか）

次回（９月８日）は、志津川小（宮城県南三陸町）と吉田小（宮城県大和町）です。

新聞作りに参加する小学校を募集しています。申し込みや問い合わせは河北ＮＩＥ推進事務局022（211）1331へ。